



# 上川井だより

令和4年2月28日  
横浜市立上川井小学校  
校長 山崎 真紀子

## 3月号

### フキノトウが告げる春

ある朝のことです。2年生が「見て、見て。こんなに大きいのが取れたんだよ。」と手に持っている氷を嬉しそうに差し出し、「家からずっと持ってきたの。」と見せてくれました。「庭のバケツにあったんだ。」5mmほどの厚みがある大きな氷です。冬の寒さの中にも楽しみや驚きを発見する子どもたちの瑞々しい感性にうれしくなった朝です。

寒い朝が続いていますが、そろそろフキノトウが顔をのぞかせる頃でしょうか。春をいち早く教えてくれるフキノトウですが、その花言葉は、「待望」「仲間」だそうです。つらい冬を乗り越え、命が芽吹く暖かい春を待ちわびる気持ちを表しているのでしょうか。先の見通せない感染症との闘い、誰もが安心して触れ合える日々をまさに待ち望む身としては、希望の花のようです。そして、そうした自粛生活を共に過ごした仲間とも、あと1か月でお別れする時期になりました。

学校では、6年生の卒業に向けて全校でお祝いしようと壁面飾りを作ったり、送る会の内容を話し合ったり、みんなで準備を進めています。「6年生の目標が『ベストホークス』だったから、鳥をモチーフにしようよ。」「上小のことを忘れないでほしいから、校舎やみんなの顔を描いて飾ろう。」6年生への感謝やお祝いの気持ちを表現しようとして一生懸命です。活動を進めるうちに、自分たち自身も一つ上の学年になるんだという期待と喜びも膨らんでいるようです。

送られる6年生のほうも、卒業に向けて準備に余念がありません。21日には、音楽朝会で小学校最後の合奏を披露しました。曲目は、「風になりたい」です。サンバのリズムで軽快にメロディーを奏でる6年生。マラカスやウッドブロックのリズムに合わせてつい踊りだしてしまいそうな、うきうきとした気持ちになりました。休み時間も使って練習に励み、心を合わせて演奏しました。最後の「ジャ・ジャ・ジャン」でリズムがピタッと合うと、大きな拍手がわき上がりました。アンコールの手拍子に嬉しそうに応え、もう一度演奏しました。「仲間」と一緒に心を合わせて演奏したこの時間をいつまでも大切に、「待望」の中学校生活へと巣立って行ってほしいと思います。

今年度も感染症の蔓延で気の抜けない日が続きましたが、ワクチン接種や飲み薬の開発も進み「待望」のふれあいのある学校生活を取り戻すまで、あともう少しだと信じています。子どもたちには、「仲間」と一緒に乗り越えて行ってほしいと思います。

これまで支えてくださった保護者の皆様地域の皆様、本校への温かいご理解ご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。